

令和8年度青少年課事業の取組状況

○神奈川県フリースクール等利用児童・生徒支援事業補助金

フリースクール等に通う子どもの保護者等の負担軽減を図るため、市町村と協調して利用料を補助。
(保護者等を支援する市町村に対する補助)

・ 令和7年度は、相模原市、鎌倉市、海老名市が、本補助金を活用し、フリースクール等に通う世帯を支援。(3市で計179人に支援。)

・ 自治体の取組をさらに拡げるため、市町村職員が出席する会議等で呼び掛けたほか、市町村議会や団体要望等でフリースクール利用料支援が話題になっている市町村に 個別に事業実施を呼びかけ、令和8年度は新たに藤沢市、葉山町、二宮町が実施予定。

・ 令和8年度は、市町村職員が出席する会議のほか、市長会議並びに町村長会議や、子ども・若者支援連携会議等においても事業の周知を行い、引き続き市町村に活用を呼び掛ける予定。また、国に対して、引き続き補助制度の創設を要望していく。



○高校を活用した若者自立支援事業費補助金

「高校内居場所カフェ」を運営する事業者に対して補助。

・ 令和7年度は、NPOが本補助金を活用し、県立高校の田奈、大和東、秦野総合、相模向陽館で、居場所カフェを実施した。令和8年度は3校で活用予定。

・ 令和7年度の4校の カフェ開催回数は94回、教職員及びスクールソーシャルワーカー、外部の専門機関等につなげた件数は307件。

・ 令和7年11月に4校の生徒を対象としたアンケートで、利用状況等を確認し、事業評価を行った。

・ 将来的にNPOの自主財源拡大の呼び水となるよう、企業版ふるさと納税を募集、SDGsパートナーシップ企業に周知した。令和7年度受入実績はなし。

・ 認知度向上と実施校増加のため、県立学校長会議で校内居場所カフェの取組みを周知した。

高校を活用した若者自立支援事業

- 「高校内居場所カフェ」を運営する団体に対して補助する取組を行っています。



【取組例】
田奈高校「ぴっかりカフェ」
生徒がジュースやみそ汁を飲みながら、雑談やゲームができ、学校内で一息つける居場所です。スタッフが生徒の悩みを「打ち明け話」として聞いています。卒業生のSOSにも対応しています。

※県立高校6校で実施中(2024年度時点)

○「高校内居場所カフェ」とは

ひきこもり等の若者支援のNPO等が高校と連携し、校内に居場所となる場「高校内居場所カフェ」を設置し生徒が安心して福祉的な支援とつながりを持つ機会を提供しています。

○学校と連携した若者支援

カフェスタッフは、親や教員以外の「第3の大人」として、日頃の関わりの中で生徒との信頼関係を築くことで、自ら相談できない生徒を学校の教員やスクールソーシャルワーカー、就労支援機関など必要な支援につないでいます。

若者の社会的自立支援に取り組む団体の活動を一緒に支援しませんか

ご寄附への御礼(ご寄附の時期や金額等により異なります。)

- ・ ホームページ等の広報媒体での企業名の掲載
- ・ 知事感謝状の贈呈